

セル内施肥によって夏まきブロッコリーの追肥作業を省略することができる

技術の概要

ブロッコリー夏まき秋どり作型において、肥効調節型肥料(溶出期間が60日のシグモイド型溶出タイプ)を播種時の育苗培土内に混和(セル内施肥)することで、定植後の窒素成分の追肥作業を省略することができます。

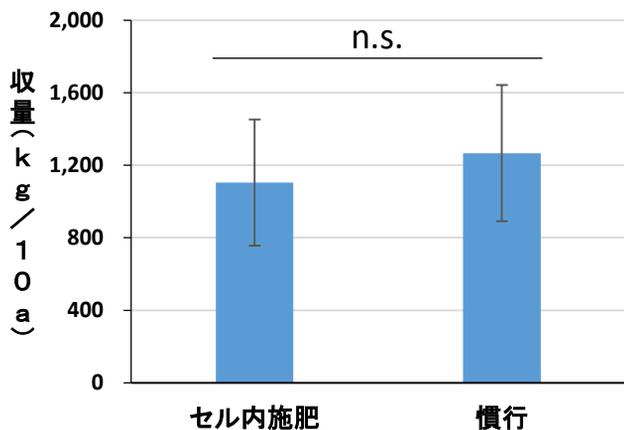
肥効調節型肥料の培土混和量は、128穴トレイ1枚当たり117g(窒素1.5kg/10a相当、栽植密度4,000株/10aの場合)とします。



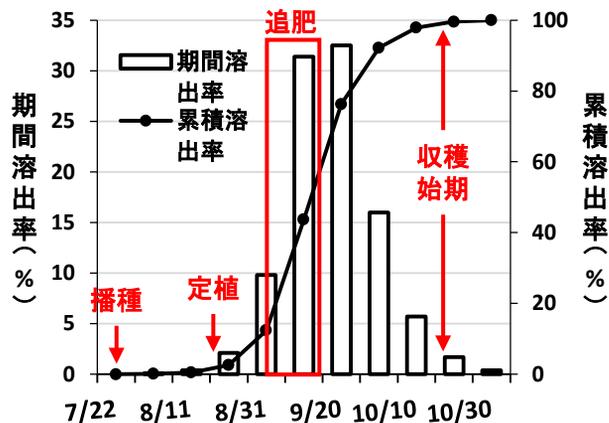
肥効調節型肥料を混合した育苗培土を128穴セルトレイに詰めた状態

期待される効果

- ・セル内施肥技術を取り入れることによって、収量は慣行と同程度を維持しつつ窒素成分の追肥作業を省略することができます。
- ・セル内に施用する肥料にかかる費用は、32円/トレイ、991円/10aです(肥効調節型肥料を2,711円/袋(10kg)として計算)。



セル内施肥が収量に及ぼす影響
注)n.s.はt検定で0.1%水準で有意差なし



肥効調節型肥料(60日シグモイド型溶出タイプ)の肥料成分溶出想定

苗産業ふくしま復興コンソーシアム

【お問い合わせ先】 福島県農業総合センター 浜地域研究所

TEL:0244-35-2633